

# 中川正春の永田町かわら版 2005/2/25 第230号

民主党三重2区総支部連合会 衆議院議員中川正春事務所 ※配信不要の方はお手数ですがご連絡ください。  
 三重/〒513-0013 鈴鹿市国分町4 5 3-7 TEL: 0593-73-3933/FAX: 0593-74-3088  
 東京/〒100-8981永田町2-2-1 衆議院第一議員会館4 2 8 TEL: 03-3508-7128/FAX: 03-3508-3428

## ○泥仕合から大事な政策論議へ

国会は、くすぶり続ける火種が、しっかり燃え上がってこない状況です。予算委員会では、橋本元総理などによる日本歯科医師会政治連盟からの一億円授受をめぐる不正の追及で、迂回献金などの根を絶つ事から取り組みましたが、思ったように行きません。自民党の逆襲パフォーマンスに民主党の真面目国対が四苦八苦しています。会社や団体からの献金を政党を通じて個人に還流する迂回献金は、民主党でもあるではないかと、でっち上げた話をもとにあげつらって一方的に攻め立ててきました。テレビを見ていた国民には、ことの真実は分かりませんから、「ただただこんな話に嫌気がさした、泥仕合は沢山で、もっと大事なことを議論しろ。」だと思います。

今週から、舞台は財務金融委員会に移ります。所得税の定率減税が廃止されて、20%の増税がされるような法案が出てきました。私は、反対です。本会議で、民主党を代表して小泉総理に対し質問に立ちました。景気が落ち込み始めている事、特に地方経済や中小企業は、苦しい事。さらに、派遣やパートで大手企業が合理化している分、個人の可処分所得は、落ち込んでいる事などの理由から、今、この時期に増税をやれば、また経済が大きくしぼむ事になると訴えました。増税の前に、ムダ使いをなくす努力を、今年の予算案ではっきり示すことが先決だということです。舞台は今、財務金融委員会になっています。

## ○核軍縮運動が直面する危機感

先週の土曜日には、ピースデポなどNGO団体が主催した核軍縮フォーラムにパネラーとして参加しました。広島や長崎の市長さんが基調講演をしました。核廃絶に向かっている世界の諸都市との協力連携ネットワークが大きく広がっているという報告と同時に、日本国内の運動の風化に対する危機感も述べられました。

胸が痛んだのは、長崎大学の土山秀夫元学長によって報告された日本政府の核軍縮取り組みに対する成績表の中味です。「唯一の被爆国であるにもかかわらず落第

だ。」ということです。自民党議員がドタキャンで欠席したので、私が国会を代表して集中砲火を浴びたような形になりましたが、彼らの言い分も最もだと思います。日米安保によってアメリカの核の傘に入って守られている分、日本政府は、腹を据えて核廃絶や軍縮を世界に訴えてはいない。いつもアメリカの顔色を見てからでないとものが言えない状況は、唯一の被爆国としては、まことに情けない。

今年の5月には、NPT(核拡散防止条約)の見直しがあります。北朝鮮やテロだけではなく、アメリカの戦術核開発などで、この軍縮システムが機能不全になっています。世界中の危機感をうけて、日本が頑張らなくてはという関係者の思いが痛いほど伝わってきました。

## ○北朝鮮人権法案を国会に提出

拉致被害者や北朝鮮からの脱北者を救済するための「北朝鮮人権侵害救済法案」を国会に提出しました。私たちの議員立法をもとに、自民党のプロジェクトチームでも議論が始まったようです。北朝鮮に対する日本外交のはばをひろげて、力をつけるためにも平和的なカードとしては、これが一番だと思っています。

## ○眩しい太陽、熊野古道を歩く

熊野古道を「みんなであるこう会」の仲間と歩きました。紀伊長島のふるさと海岸を一望するコースは、晴れた空に、冬の澄み切った空気、深い山々からただよう自然の靈気に囲まれていました。私達を案内いただいた地元の公民館長さんの西村先生は、名物語り部ヴォランティア。皆がちよっと疲れてきたかなと感じると、昔から地元で伝わるおもしろ話で楽しませてくれたり、いのししの風呂場まで案内してくれたり、「皆さん、ようこんな遠いところまで来てくれました。」というあったかい気持がいっぱい伝わってきました。マンボウの串焼き、高菜寿司、さんまの丸干し、大内山のソフトクリームなどなど。ふとりぎみの私の体に、鋭い監視をするみはる奥さんの目を盗んでは、おいしい名物を食べる事にも堪能しました。